

## 第 17 回 日本緩和医療薬学会年会のご案内

この度、「第 17 回日本緩和医療薬学会年会」において、下記の内容に関するシンポジウムを開催する運びとなりました。詳細は、ホームページ(<https://plaza.umin.ac.jp/jpps17/>)をご覧ください。先生方のご参加を心からお待ち申し上げます

### 記

■ タイトル： 多死社会の中で、死にゆく人を支える人材をどのように育てるか？

■ オーガナイザー： 加藤 剛 ((一社)所沢市薬剤師会)

土井信幸 (高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室)

■ 趣 旨

少子高齢化に伴い、死亡者数は 2030 年までに約 30 万人増加すると推計されている(内閣府「平成 27 年度版高齢者白書」)。この伸びに病床数が追いつかず、自宅や施設といった病院以外での看取りニーズは急増する。看取りの際には、最期まで「その人らしい生活」のあり方が問われ、在宅で看取る場合、医療系サービスなどに加え、「生活」を整えていくための介護系サービスと連携するためのコミュニケーション能力が問われる。今日・明日にでも亡くなるかもしれない人に、医療・介護職員がかかわる場合、状態把握の集中力や緊張感の持続が大きな負担となります。患者が亡くなった後の喪失感なども問題となっている。このように医療・介護人材の心や身体のケアが多死時代を支える在宅医療における大きな課題であり、人材は疲弊し、力のある人ほど燃え尽きのリスクが高まる。そこで本シンポジウムでは、看取りの現場で「何をしなければならないのか・(医療・看護人材に)何を伝えなければならないのか」、「そのミッションを遂行するうえでどんなツールやスキルが必要なのか」、「これらを実践するうえでの組織づくりをどうするのか」という幅広い視点に立ち、死にゆく人を支える人材をどのように育てるのかを皆さんと考えていきたい。

■ 座 長： 鈴木順子 (北里大学)、加藤 剛 ((一社)所沢市薬剤師会)

■ シンポジスト

①宮崎菜穂子 (東京都新宿東口検査・相談室、薬剤師・看護師)

「看護教育ではどのように教えているのか」

②藤井 淳 (ノムラ薬局)

「終末期患者が家族との大切な時間を過ごせることを目指して」

③池田里江子 (BFC 株式会社ふれあい薬局飯能店、飯能地区薬剤師会、(一社)埼玉県薬剤師会)

「地域で看取る人(職種)を育てる」

④土井信幸 (高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室)

「薬学教育の中で死にゆく人を支える人材をどのように育てるのか？」

■ 開催日時： 2024 年 5 月 25 日(土) 午後 1 時～午後 2 時 30 分

■ 会 場： 第 5 会場 (文京シビックセンター3 階 区民会議室 A+B, C)

■ 認定単位： がん薬物療法認定薬剤師、精神薬学会認定薬剤師

■ お問い合わせ先： 所沢慈光病院 加藤 剛(電話：04-2922-2990 E-mail：[pharm11@kouyukai1968.or.jp](mailto:pharm11@kouyukai1968.or.jp))